



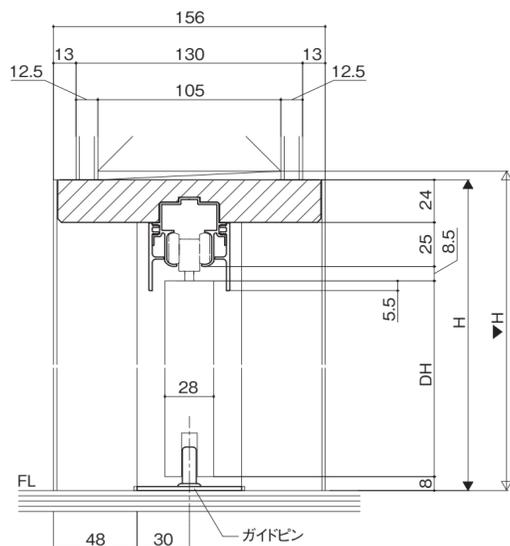
# リビング建材 ウッディーライン 上吊方式 引込み戸

## 取付け説明書

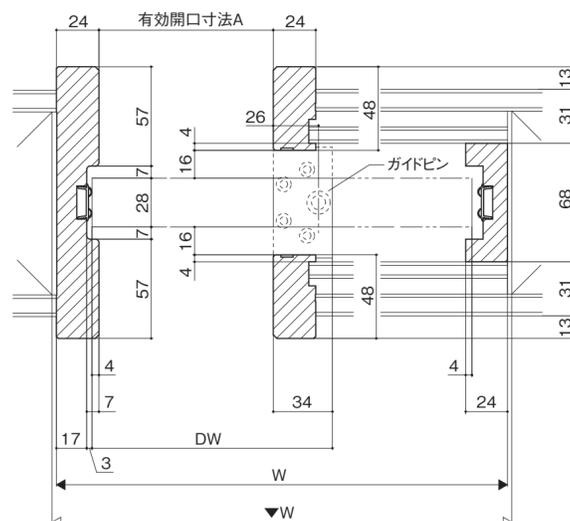
### ■納まり図

#### ■上吊り片引戸引込み戸タイプユニット ノンケーシング156mm

##### ●縦断面図

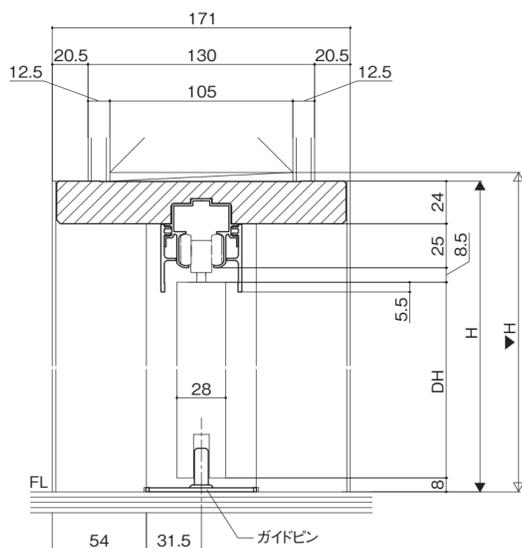


##### ●横断面図

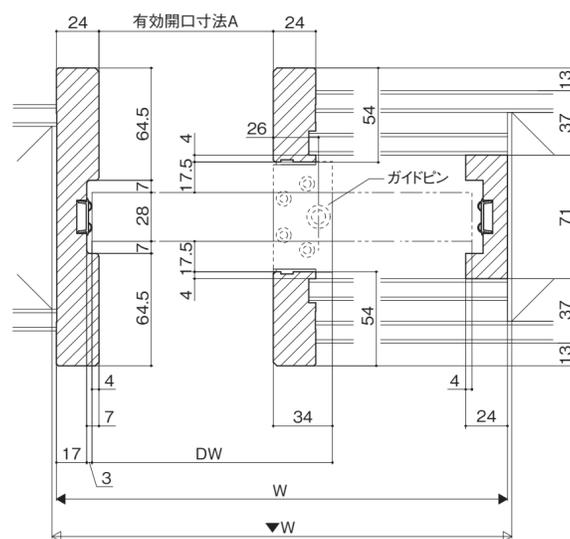


#### ■上吊り片引戸引込み戸タイプユニット ノンケーシング171mm

##### ●縦断面図



##### ●横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法
W14 (1454)	686
W16 (1644)	781
W18 (1824)	871

算出式：A寸法=(W-82)/2  
DW=(W-6)/2

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。

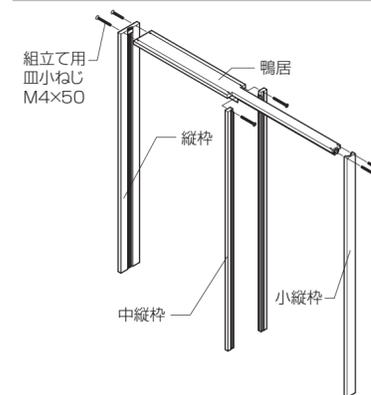
### お願い

●取付けの際は、必ず 3/8 の取付け精度の許容範囲を守ってください。枠の取付け精度がポップアップ機構の作動に影響し、本体が戸袋から出なくなるおそれがあります。

### ■取付け上のおお願い

- 本製品は、床先張り(枠後付け)専用です。縦枠の切詰めは不要です。
- 本製品は、ノンケーシングタイプNC156は壁厚(116~130mm)、NC171は壁厚(131~145mm)、NC180は壁厚(146~160mm)に取付けられます。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくって納めてください。
- かい木には合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の取付け時には、ゆがみ・ねじれなどのないように(特に小縦枠)注意してください。
- 本体にガムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- ソフトモーション部品には潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けます。本体重量に耐える強度を要するため、断面寸法105×180(mm)以上の梁又はまぐさを使用してください。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 建具引込み部の戸袋側の小壁は、枠を開口部に取付け本体の吊込み、本体が正常に開閉できることを確認してから取付けてください。

### ■部品・部材の名称と明細



#### ■本体

引戸本体	1枚梱包×1
------	--------

#### ■枠セット

鴨居	1
上レール	1
ジョイントレール	1
縦枠	1
中縦枠	2
小縦枠	1
幕板	2
戸当り	2(錠付きの場合3)
枠定規(施工用具)	2
枠用部品セット	1
ポップアップ部品セット	1

#### ■枠用部品セット明細

	NC156/180	NC171
吊車A	1	1
吊車B	1	1
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6	6
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50(予備用含む)	12	12
組立て用皿小ねじM4×50	6	6
ガイドピン	1	1
ガイドピン取付け用皿タッピンねじφ3.5×16	4	4
ガイドピンスペーサー	-	2

#### ■ポップアップ部品セット明細

ポップアップ部品	1
ポップアップ部品取付け用ベタタッピンねじφ4×30	2

### お願い

※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部品に混入し、作動不良の原因となります。



## ■開口部の作り方

### ■開口部寸法の出し方

開口A寸法=製品寸法(W)+5mm

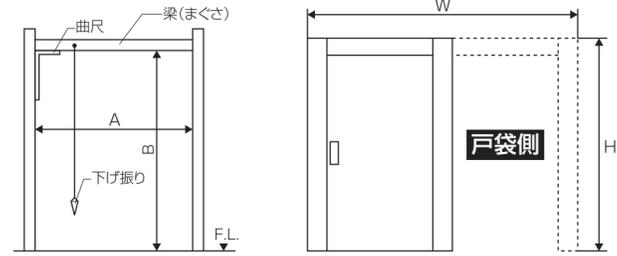
開口B寸法=製品寸法(H)+5mm

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

※床の水平も正しく出してください。

※本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさで重量を受けます。本体重量に耐える強度を要するため、断面寸法105×180(mm)以上の梁又はまぐさを使用してください。

### ●開口寸法

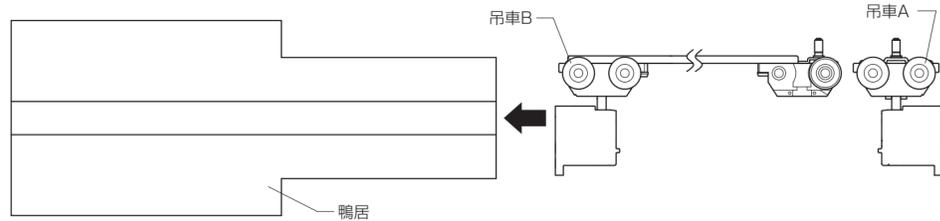


## ■取付け順序

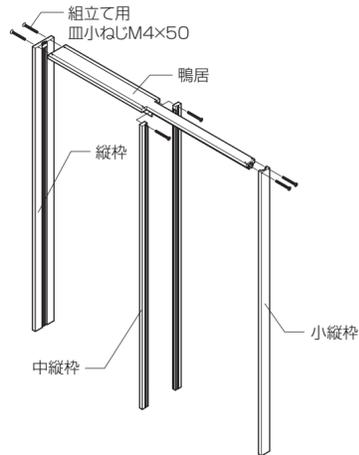
### ■1 枠の組立て

①吊車A・Bを互い違いの向きにして、吊車Bから上レールの小縦枠側の木口より挿入してください。

※吊車A・Bの挿入順序および挿入方向を間違えるとソフトモーション機構がうまく作動しません。

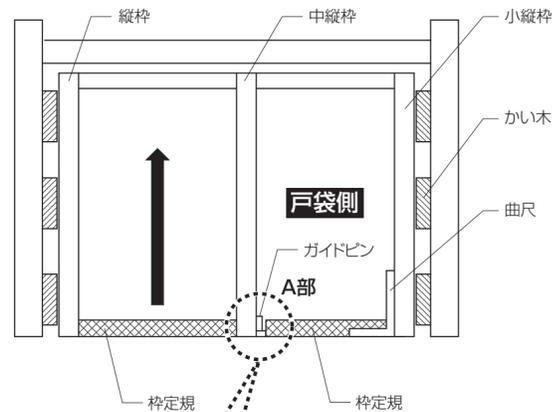


②図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。



③開口に組立てた枠を仮置きし、同梱の枠定規・中縦枠でガイドピンの位置出しをします。

位置出ししたガイドピンを使用して中縦枠の位置出しをし、かい木を使用して枠の水平・垂直を調整します。



### お願い

※枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。

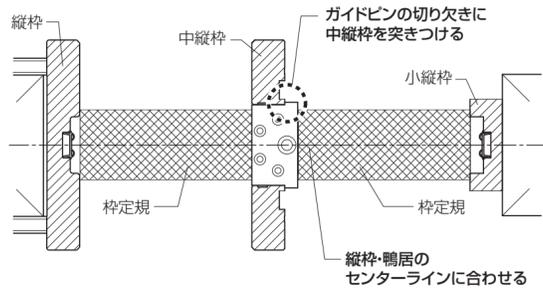
### ■A部詳細図

●枠定規でガイドピンを挟むようにして、ガイドピンの位置出しをします。中縦枠は、ガイドピンの切り欠きに合わせてください。

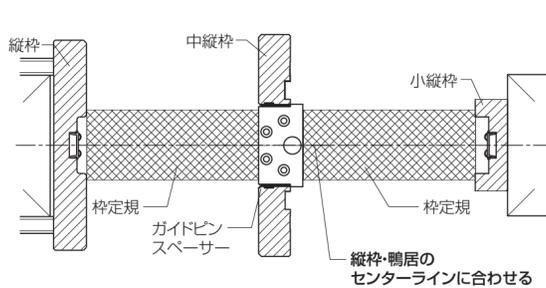
また、中縦枠と床の間に、すき間ができないようにしてください。

※NC171の場合は中縦枠とガイドピンの間にガイドピンスペーサーを挟んでください。

#### 【NC156/180の場合】



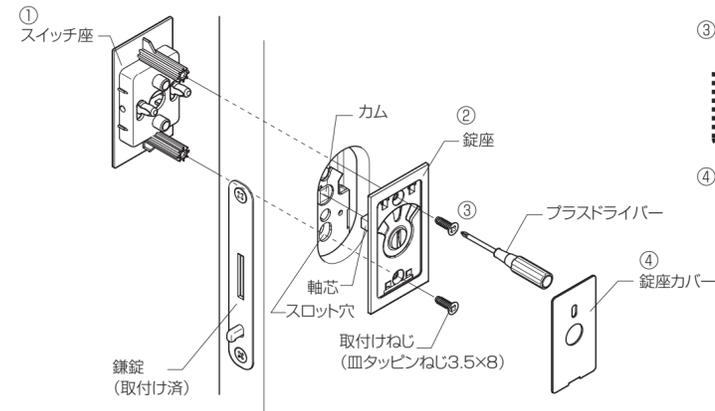
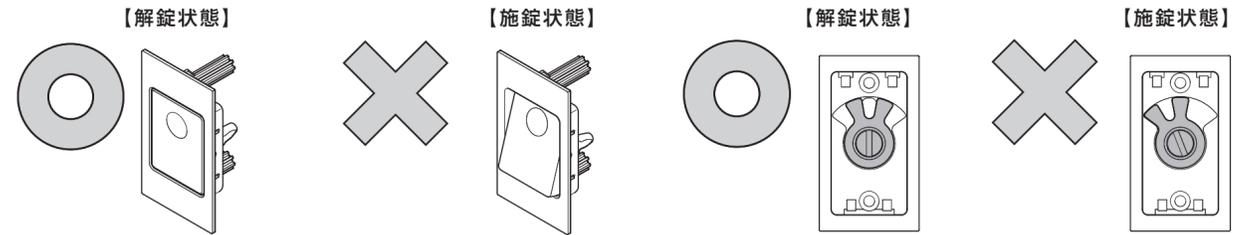
#### 【NC171の場合】



## ■プッシュ錠の取付け

①スイッチ座が解錠状態(フラットな状態)になっていることを確認して、スイッチ座を鎌錠のスロット穴に差込んでください。

②スイッチ座の軸芯が解錠状態になっていることを確認して、錠座の軸芯を鎌錠のカムに差込んでください。



③スイッチ座と錠座を取付けねじで固定してください。

お願い  
※必ず手回しドライバーでねじを固定してください。  
※取付けねじを締め付け過ぎないでください。錠座が反ります。

④錠座カバーを錠座に取付けてください。

## ■錠の取外し

①錠座カバー下部の切欠き部にマイナスドライバーを差込んで錠座カバーを外してください。

②スイッチ座と錠座の取付けねじをゆるめてください。

③錠座とスイッチ座を外してください。

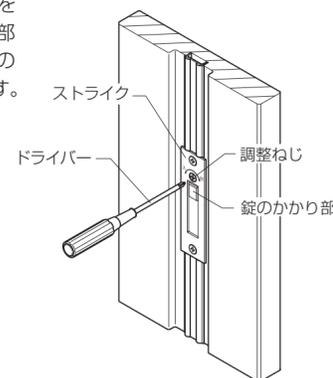


### お願い

※無理矢理カバーを外さないでください。錠座カバーが破損するおそれがあります。

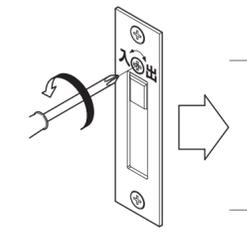
## ■引戸錠のかかり調整

●ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



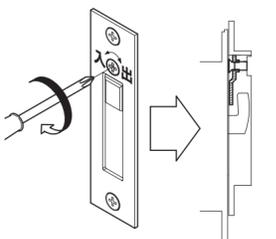
### 【本体と枠のすき間が大きい場合】

●調整ねじを左に回して調整してください。



### 【錠がかかりにくい場合】

●調整ねじを右に回して調整してください。



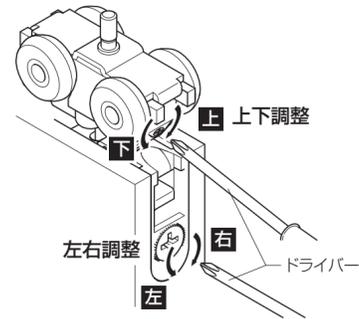
## ■引戸本体の調整

### 〔上下調整(調整幅+4mm、-1mm)〕

- プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。
- ※本体を下げすぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

### 〔左右調整(調整幅±2mm)〕

- 左右調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ8mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。
- ※左右調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンおよび縦枠下部の戸先側振止め調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

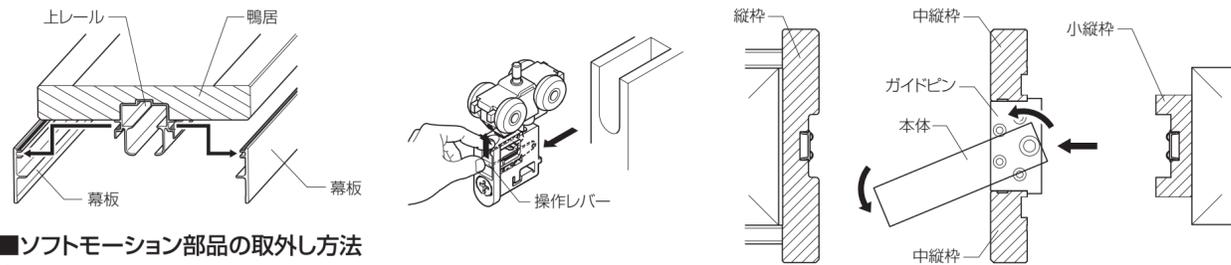


## ■ソフトモーション機能 異常時の対処方法

現象	チェックポイント	対処方法
<b>閉まりきらない</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている ※「■取付け精度の許容範囲」の欄参照</li> <li>●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある</li> </ul>	<p>許容範囲内となるように再取付けてください。</p> <p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>
<b>ブレーキが効かない</b> <p>※ブレーキの効きには限度があります。重量の重たい本体を速く閉めると、ブレーキ感が弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を速く閉めると、ブレーキ感を強く感じたりします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある</li> </ul>	<p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>

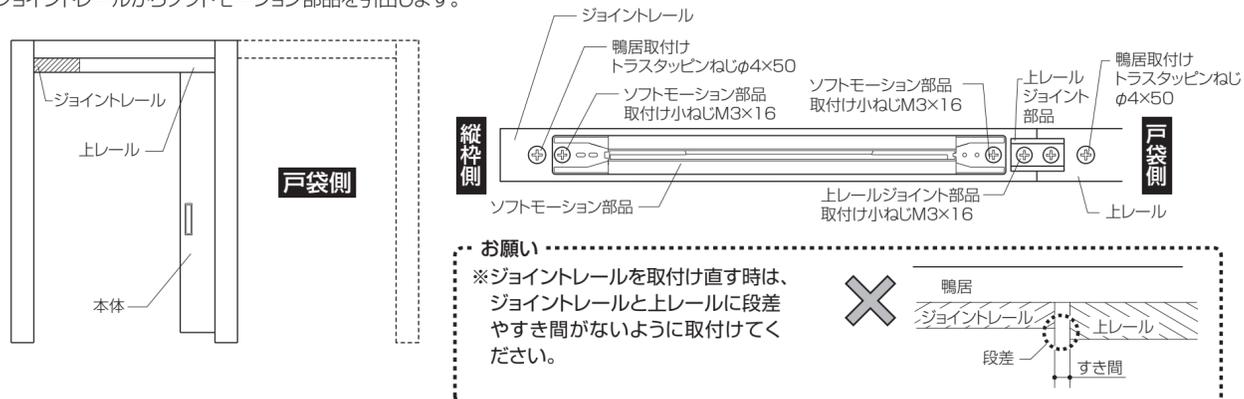
## ■本体の取外し方法

- ①上レールの幕板を取外します。
- ②戸先側の吊車Bを外し、本体を戸袋から回転させながら引き出して戸尻側の吊車Aを取外してください。  
吊車の取外し方は本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。
- ※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。



## ■ソフトモーション部品の取外し方法

- ①上レールの幕板を取外します。
- ②鴨居取付けねじ(トラスタッピンねじφ4×50)、ソフトモーション部品・上レールジョイント部品取付けねじ(小ねじM3×16)計6箇所のねじを外します。
- ③ジョイントレールと上レールをつないでいる、上レールジョイント部品を上レール側にずらして、ジョイントレールを取外します。
- ④ジョイントレールからソフトモーション部品を引出します。



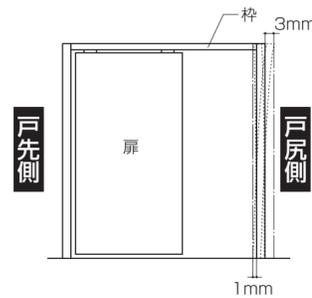
## ■お願い

- 取付けの際は、必ず取付け精度の許容範囲を守ってください。  
枠の取付け精度がポップアップ機構の作動に影響し、本体が戸袋から出なくなるおそれがあります。
- 鴨居レールのねじを締めすぎないでください。レールが波打ち、ポップアップ機構の作動に影響が出て、本体が戸袋から出なくなります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 戸袋側の小壁は、この段階では取付けず、本体の吊込みが終わり、本体が正常に開閉できることを確認してから取付けてください。

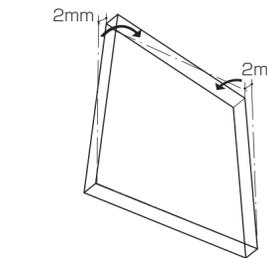
## ■取付け精度の許容範囲

※下図の許容範囲をこえる場合は、許容範囲内になるように取付けを修正してください。(ポップアップ機構の作動不良、引戸が吊込めない、ソフトモーション機構の作動不良の原因となります。)

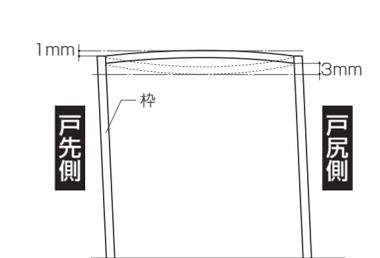
### ●横方向の倒れ



### ●奥行き方向のねじれ

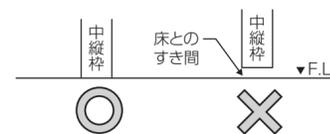


### ●枠のタイココツツミ

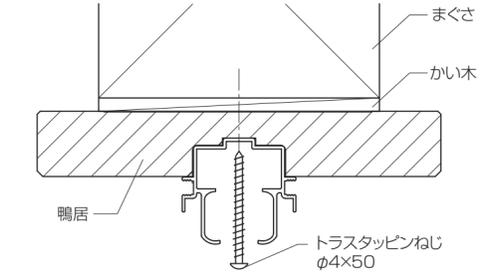


- ④縦枠・小縦枠をDNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。  
※縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、予備の鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で固定してください。
- ⑤鴨居はかい木を入れて水平になるように調整したあと、トラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

※鴨居を固定したときに、中縦枠と床の間に、すき間ができないようにしてください。



## ●鴨居

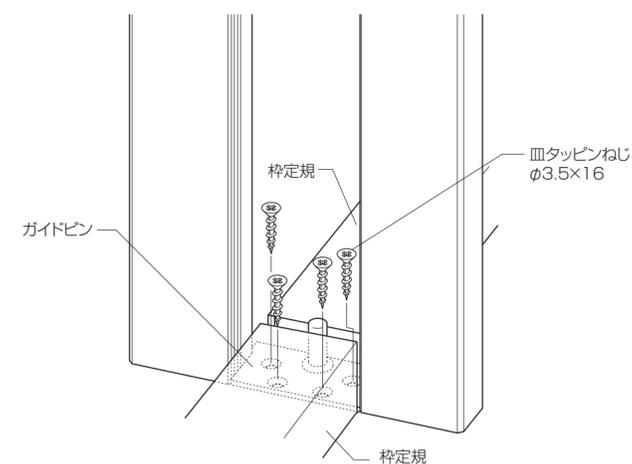


## ■お願い

- 必ず内装ボードは縦枠に突きあてて取付けてください。突きあてがない場合は必ずかい木を入れてください。
- 梁又はまくさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。

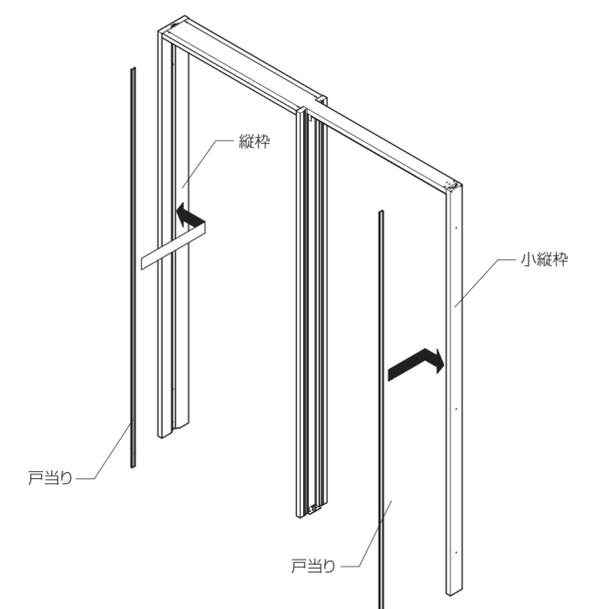
## 2 ガイドピンの取付け

- 皿タッピンねじφ3.5×16で取付けます。



## 3 戸当りの取付け

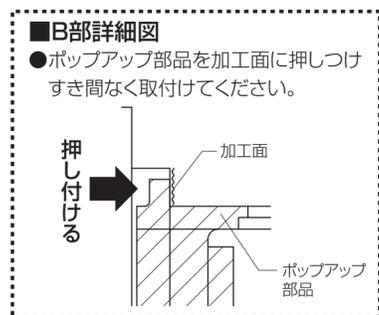
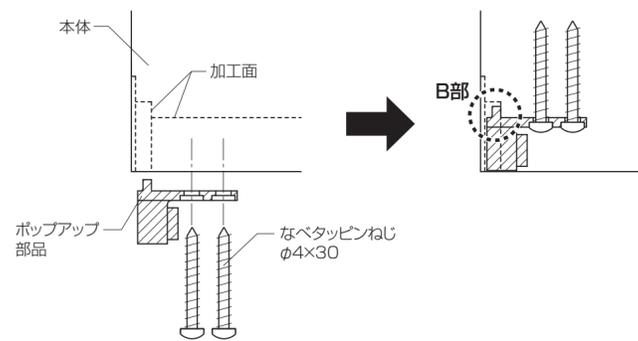
- 戸当りに接着剤(現場手配)をつけて縦枠・小縦枠に取付けます。  
※戸当りが長い場合は、無理に入らずに必要量を切詰めてください。  
※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行ってください。



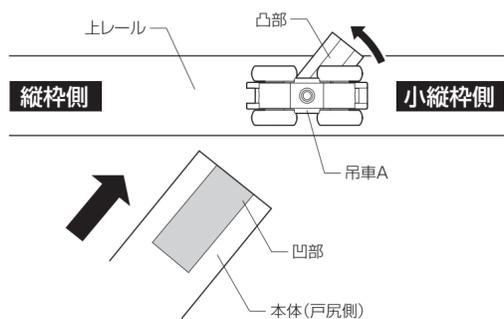
#### 4 本体の吊込み

※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

①本体下部引手側の加工溝にポップアップ部品をなべタッピンねじφ4×30で取付けてください。



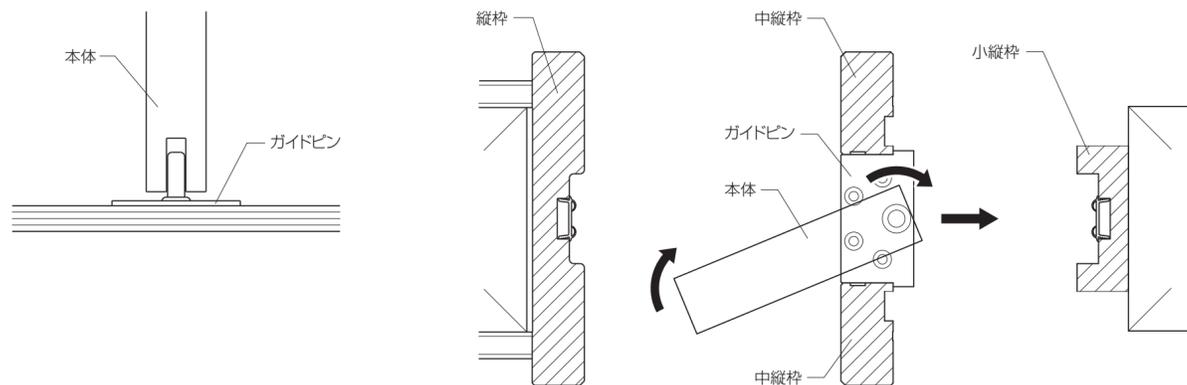
②吊車Aと本体を下図の向きにして本体に取付けます。  
吊車は本体に水平に押込むとワンタッチで取付けられます。  
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。



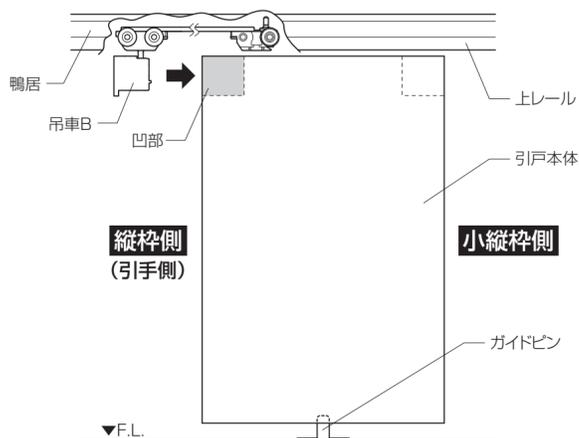
お願い  
※ソフトモーション部品と吊車が干渉しない位置で吊込みを行ってください。

**▲注意**  
●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。

③本体を回転させながら本体下部の溝にガイドピンを入れ、そのまま小縦枠側に押し込みます。



④吊車Bを本体に取付けます。  
吊車は本体に水平に押込むとワンタッチで取付けられます。  
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。



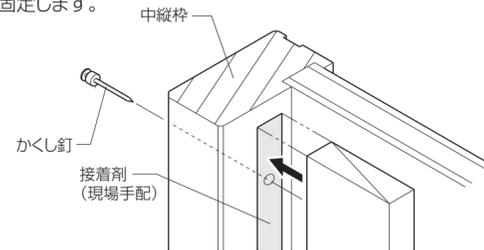
お願い  
※本体の吊込みが終わったら、以下の作動・納まり確認を行ってください。  
●本体の納まり確認  
●ソフトモーション機構の作動確認  
●ポップアップ機構の作動確認  
異常がありましたら納まり寸法の確認と各調整方法を参照し、調整を行ってください。

#### 異常時の対処方法

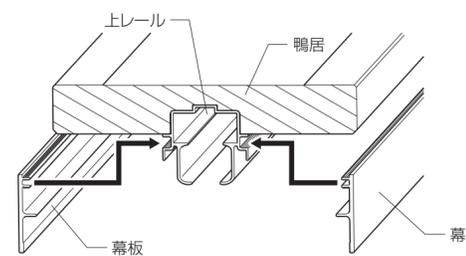
チェックポイント	異常時の対処方法
<b>■本体の納まり確認1</b> ①本体を開けたとき、中縦枠と本体が面一になるようにしてください。 ②本体を閉めたとき、光漏れがないように戸当たりと本体に上・中・下で隙間がでないか確認してください。	「引戸本体の調整 上下調整」の項を参照の上下調整を行ってください。 調整しきれない場合は縦枠・小縦枠の垂直を点検し、是正してください。
<b>■本体の納まり確認2</b> ●本体が縦枠戸じゃくりの中心にきて、戸先振止めと本体下部キャップが嵌め合わるか確認してください。	本体が戸じゃくりの中心にきていない場合は、「引戸本体の調整 左右調整」の項を参照の上下調整を行ってください。 調整しきれない場合は縦枠・中縦枠・ガイドピンの納まりを点検し、是正してください。 戸先振止めが本体下部キャップに入らない場合は戸先側振止めのねじをゆるめて、位置を調整してください。
<b>■ソフトモーション機構の作動確認</b> ●本体を開閉しソフトモーション機構が作動するか確認してください。 ※ソフトモーション機構は閉め方向(戸先側)に作動します。開け方向(戸尻側)にソフトモーション機構はついていません。	「ソフトモーション機能異常時の対処方法」の項を参照の上、対処を行ってください。
<b>■ポップアップ機構の作動確認</b> ●本体を開けた状態で本体を軽く押し込み、本体が軽く飛び出すか(ポップアップ機構が作動するか)確認してください。 正常であれば引手が見える程度飛び出します。	飛び出しが少ないときは本体を閉めたときの小縦枠側の戸当たりと本体のチリ寸法が5mm以上あるか確認してください。 チリが少ない場合は「引戸本体の調整 上下調整」の項を参照の上下調整を行ってください。調整しきれない場合は縦枠・小縦枠の垂直を点検し、是正してください。

#### 5 小壁の取付け

※ポップアップが正しく作動することができたら小壁を取付けます。  
①中縦枠の裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、栈木をかくし釘で固定します。



②上レールに幕板を取付けます。(表裏2箇所)



③ボードを取付けます。

#### ■ソフトモーション機構の復帰方法

●本体を吊込んでソフトモーション機構が作動しない場合は、ソフトモーション部品を確認してください。  
ソフトモーション部品の正常な状態は右図の通りです。  
右図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。  
※本体を戸袋に入れた状態で復帰作業を行ってください  
※正常な状態はスライダー1とスライダー2が離れた状態です。

